



手作りピザをどうぞ

いずみ保育園

新園舎になって、皆の大好きな場のひとつに「薪ストーブ」があります。雪が降り始める頃になると園長先生が火を入れます。玄關から入るとポカポカと暖かい空気に包まれ、赤く燃える炎に心が癒されます。

そんなストーブにはオーブンも付いていて「今年はお料理にも使おうね」と楽しみ

にしています。トッパバスターはもちろん年長さんです。メニューは「ピザ」！麵棒で生地を伸ばしながら、「皆喜んでくれるかな・・・」とわくわく顔の二人でした。ウインナーやチーズ等トッピングを楽しんで、いざオーブンへ！薪ストーブの前で、嬉しそうに待つうち、「いい匂いしてきた」と満面の笑み。



午睡後のおやつタイムには、上手に焼けたピザがテーブルに並びました。「ゆり組さんが作ったの？」と小さい子達も目を丸くして見入っていました。「いただきます！」と笑顔で頼張る姿から「美味しい」と感じる幸せが伝わってきました。次は焼き芋かな？

『冬の日の宝物』

さかえ保育所

さかえ保育所の子どもたちは、冬でも元気いっぱい！雪遊びの日は朝から待ちきれない様子で真っ白なグラウンドに飛び出していきます。2・3歳児のりす組さんと4・5歳児のぞう組さんはビニール袋で斜面を滑ったり、子ども用のスコップで雪かきをした

り、体から湯気がたつほど小さな体をよく動かして遊んでいます。一方では、保育者と一緒に雪だるま作りに挑戦！雪を転がしてどんどん大きくする子どもたちの姿は真剣そのもので完成した雪だるまに木の実で目をつけたり、枯れ葉の髪を

つけると「かわいい♪」と歓声があがりました。また、0・1歳児のひよこ組さんは、スノーウェアを着て歩くだけでも精一杯！よちよちと雪の上を歩いたり、手袋で柔らかな雪を掴んで感触を楽しんだりしています。寒さも忘れ、真っ赤なほっぺで楽しむ子どもたち。冬ならではの自然と触れ合う体験は、子どもたちにとって忘れられない宝物となるでしょう。



写真で見る学校の様子

長万部高等学校

長万部中学校

長万部小学校



12月17日
高校生による政策提言



11月28日
租税教室 (3年生)



12月12日
ミニトマト販売体験 (5年生)



12月20日
軽音楽部クリスマスライブ



12月11日
職業説明会 (2年生)



12月12日
北海道新幹線まちづくり発表会 (6年生)



12月25日
体育大会



12月20日
総合発表会 (1年生)



12月18日
認知症サポーター養成講座 (6年生)

特別の教科道徳

長万部中学校 柴野貴史

ある道徳の教科書に、他人との関わり、情報モラルと友情について学ぶ「ゴール」という題材があります。その話は、「部活動で一人の失敗で負けたことを発端に、メッセージアプリを使ったり、メッセンジャーに誤解を生じさせて、チームのムードは最悪になっていく」という内容でした。道徳では、このような題材を学習する過程で、個々が考え感じたことを生徒間で交流、対話を通して相手の考えを知り、自分の考えを深めていくことを大事にする授業を行います。私たちの生活や学校生活の基礎となる「道徳性」を養う意味においても、学校では、この道徳の授業をしつかり行っていくと考えております。

さて、道徳は、特別の教科道徳として完全実施されてから三年が過ぎました。道徳教科の背景には、深刻ないじめの本質的な問題に向き合うということがあります。その対応のために、従来の道徳とは違った体験的な学習をはじめ、道徳的な価値に迫る読み物の活用や道徳的な価値に関する問題解決学習など、多様な指導法を取り入れた授業を行うことが求められています。

先ほどの道徳教材のように、試合に負けたことを一人の責任にするばかりでなく、その子の事情もわからず「あの練習態度はどう思う」「やる気あるのか」などと、その子がいない場面で話をし、さらにメッセンジャーアプリを使い、陰で悪口を言うなど、読み物ではありますが、学校でも同じようなことがおきくことを想定しています。

この問題場面について「自分ならどうするか」という観点から道徳的な価値と向き合い、異なる意見を持つ友達と対話形式で話し合い、道徳的な価値を多面的・多角的に考えるという学習を行います。いじめにも通じる事態が起きないための学習ですが、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育むことにつながる学習です。

北海道におけるいじめ認知件数は、本年六月に行った調査では、小学校四〇、九七一件、中学校五、九二九件、高校九九二件でありました。三年連続して増加、過去最多となりました。

学校では全教職員が、いじめ防止対策推進法におけるいじめの定義を再確認し、積極的な認知の重要性を理解するとともに、早期発見・早期対応、いじめの未然防止の取組等の充実を図るよう進めております。

スマホやネットを取り巻く状況は目まぐるしく変化しておりますが、子どもたちが一番進んでいて、教職員と保護者は取り残されている状況にあります。気がかりなのは、全国的に子どもたちに見受けられるいじめ等のトラブルの多くが、SNSに関係しているという状況であります。

今の時代、携帯やスマホを使わせないということは、現実的ではありません。皆さんのお子さんが「被害者」にも、「加害者」にも、なり得るということを考え、「人を傷つける会話に参加しない」など、家庭における使い方のルールづくりについて、真剣に話し合っています。